

よめだ ところどころ



第十三号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

東栃井からみた飛騨川と川辺ダム 蜂屋層の露頭とダムのえん堤



上の写真は川辺ダムの堰の上から慈恵会の建物方面を見たものである。ダムのえん堤上は通路となっており、自転車までの通行が可能である。明治期の地図によれば、東栃井と川辺を結ぶ渡船があることがわかる。東西栃井がこの渡船で繋がっていたわけであるが、これを継承して通行が可能となったものであろう。現在では渡る人は少なくなっているが、ここからの飛騨川河床の眺めは爽快である。水面まで20m以上の落差があるので、金網があっても通過はスリル満点である。高所が嫌いな人や子供や高齢者の皆さんにはあまりお勧めできない。このダムは下米田の農業にとって大きな影響を与えているが、ここではダムからの景色に注目してみる。堰堤から河床を見下ろすと、黒っぽい岩石がむき出しになって続いている。(写真参照)これが、この土地に特徴的な「蜂屋層」といわれる地層である。

注 美濃加茂市南部に広く分布する安山岩質・玄武岩質の火砕岩・水中自破砕溶岩・貫入岩などからなり、凝灰質砂岩や凝灰質シルト岩などの湖沼性堆積岩層をともなう。火山活動は浅い水中で起こり、火砕岩類のほとんどはマグマ水蒸気爆発により形成されたと考えられている。層厚は約三百メートルで形成は約二千万年前とされる。(ジオランド岐阜による)

この地層の上に造られたダムは比較的安定的な構造物といえる。地震等の大きな災害時には対岸へ緊急的に通行可能な場所として記憶しておくといえよう。

最後に、「栃井」という地名についてであるが、一般には「栃の木があった場所」と理解されやすいが、そのような単純な理解で良いものかどうか疑問である。栃の木があったとしても「井」という解釈ができない。地名解釈的には「トチ」が狭まった地形を指すと考えれば、そのような場所です地下水等の湧水が見られる場所と考えることができる。



東栃井の渡船

光徳寺

明治後期の飛騨川河岸